

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案（国際教育）

日 時：令和7年1月30日（木）第5・6校時

学 級：第5学年1組 26名

場 所：図書室

指導者：南 孝彰・岡田 さくら

1 単元名 Welcome to JAPAN！ 他国の人とつながろう

2 単元の目標

日本の米のおいしい食べ方について調べる活動を通して、自分たちに身近な米の魅力に気づき、調べた内容を外国の方に分かりやすく伝えるために、工夫しながら表現できるようにする。

<国際教育の目標>

- 相手に分かりやすく伝える方法を理解し、活用する力を身に付ける。
- 相手に伝わりやすい方法を工夫して表現できる。
- 自分が考えたことを積極的に発信しようとする態度を養う。

3 単元の学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
総合的な 学習の時間	身近な米とその食べ方について、必要な情報を収集し、相手や場面に応じた適切な表現方法があることを理解している。	身近な米とその食べ方について、集めた情報を整理・分析し、必要なものを選んでいる。	身近な米とその食べ方についてすすんで考えを伝えようとしている。
国際教育 視点の 評価規準	① 外国の方に伝えるためには、既習の英語表現を使い、写真やジェスチャーなど視覚的に分かりやすい工夫を取り入れることが必要であると理解している。 ② 外国の方に伝わりやすい工夫を取り入れている。	① 身近な米の魅力を外国の方に分かりやすく伝えるために、キーワードとなる英語や写真を入れるなど、発表資料を工夫している。 ② 既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら発表している。	① 自分たちに身近な米の魅力に気づき、さらに多くの人々に伝えようとしている。

4 単元について

高学年では、「日本と外国の文化を理解し、それぞれのよさや多様性に気付き、互いを尊重し合うことができる児童」「自分の考えや気持ちについて自信をもって表現しながらやり取りを続けることができる児童」を目指している。

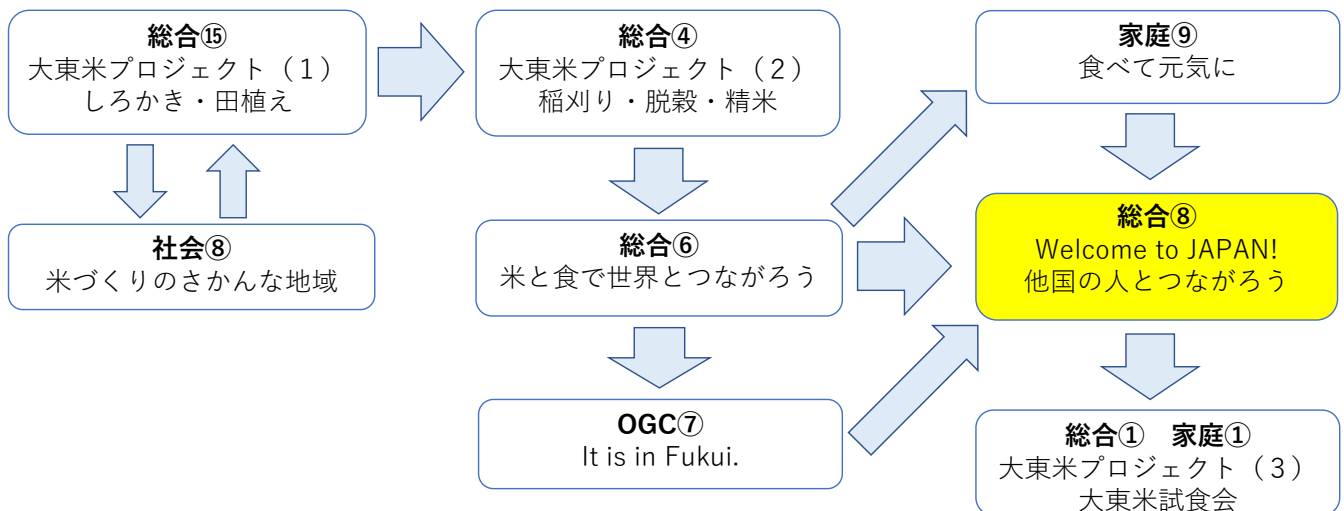
第5学年の総合的な学習の時間では学校の水田を活用し、年間を通して「大東米プロジェクト」として米づくりを体験している。社会科では食料生産や工業の学習等で自国について学ぶとともに、外国とのつながりについても意識することとなり、家庭科では食事について学び調理実習の機会もある。そこで、米を通して世界とつながることを軸に、本単元を構想した。

1学期には、「大東米プロジェクト」を社会科での食料生産単元と関連させ、普段口にしている米についての理解を深めた。日本の米づくりについて理解を深めるとともに、米を使った郷土料理を調べることを通して、日本全国にその地域の特産と米を組み合わせた多様な郷土料理があることを知った。発表を通して、米が日本の食文化と深く結びついていることを知り、それぞれの地域の郷土料理に込められた先人の知恵や地域の食材を使っているよさを見付け、自国の文化についての興味・関心を高めた。

2学期には、総合的な学習の時間「米と食で世界とつながろう」の学習や OGC の時間に、日本の米と世界の米の違いや世界にある米文化、世界の郷土料理を調べることを通して、日本だけでなく世界の食文化にも目を向けた。さらに、OGC の時間には既習の英語表現を使って友達とやり取りをする機会を毎時間設けることで、英語を使ってやり取りを続けながら会話をすることに慣れるようにした。

3学期には、再び日本の米に目を向け、自分たちに馴染みのある日本の米のおいしさを外国の方に伝える活動を行う。外国の方に発信することを意識し、既習の英語表現を使うことや、写真やジェスチャーなどを使って視覚的に分かりやすい工夫をしていく。このような活動を通して、相手に合った表現の仕方を工夫し、自分の考えを意欲的に発信することができる児童を育成したい。更に、英語力・発信力・コミュニケーション力を身に付け、国際社会で活躍できるグローバルな人材としての素地を養っていきたい。

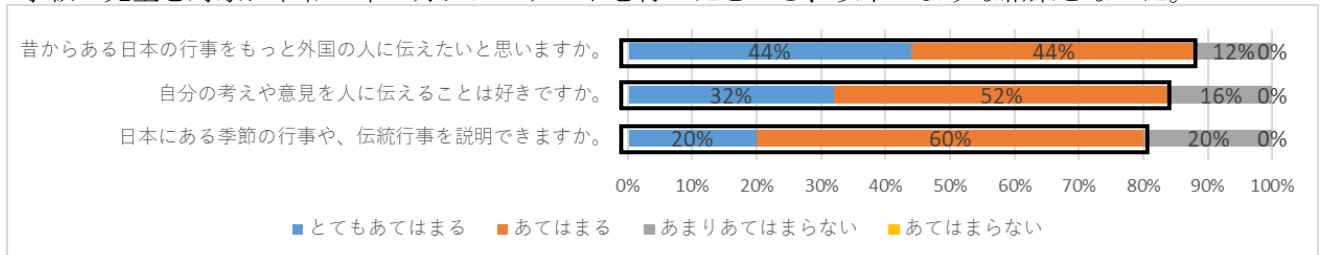
＜本単元との関連教科等および単元名＞ ※教科名の横の数字は、授業時数



5 児童について

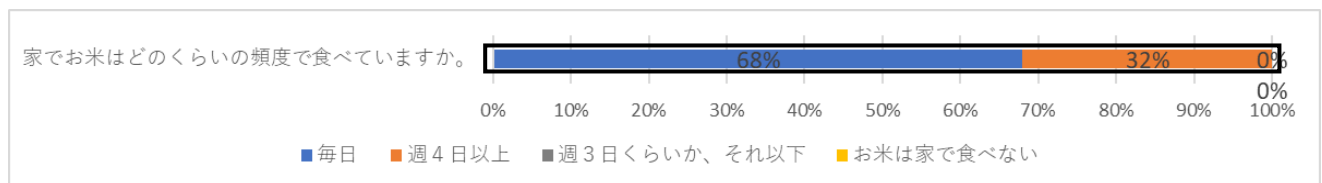
本学級には様々な国にルーツをもつ児童や家族が外国出身の児童も在籍し、国際色豊かである。食文化や行事、宗教などについて自然と話題になることもあり、違いがあることを当たり前のこととして考え受け入れる意識をもっている。来日したばかりで日本語を学習中の児童に対して、流暢な中国語を用いて意欲的に通訳を買って出る児童がいたり、コミュニケーションをとろうとジェスチャーを交えたり、知っている英語を使うことに挑戦したりする姿が見られる。児童同士の関わりの中で互いの国の言葉を少しずつ覚えたり違いを見付けたりする様子や、日本以外のルーツをもつ児童も加わって言語交換をし合っている様子もあり、互いの文化を紹介し合うことを楽しんでいる。

学級の児童を対象に令和6年9月にアンケートを行ったところ、以下のような結果となった。



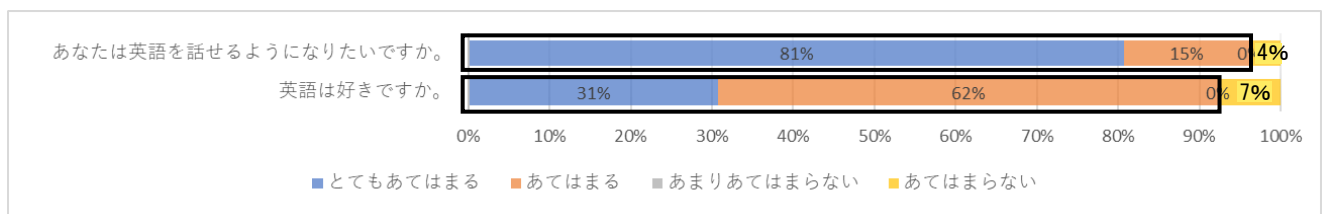
「昔からある日本の行事をもっと外国の人に伝えたいと思いますか。」「自分の考えや意見を人に伝えることは好きですか。」「日本にある季節の行事や伝統行事を説明できますか。」という質問では、肯定的回答がいずれも80%以上となった。そこで、伝えたいという意欲を生かして、自国の文化や自分の考えを積極的に発信できる児童の育成を目指し、児童にとって最も身近な食である米を題材に発信する機会を設けた。

米に関するアンケートでは、以下のような結果となった。



「家でお米はどのくらいの頻度で食べていますか。」という質問では、全員が週4日以上米を食べていることが分かった。また、「お米の学習でやってみたいことはありますか。」という設問において、児童から「お米に合う食べ方を知りたい。」「自分たちでお米を使って料理をしてみたい。」という意見が出たため、学習計画に取り入れた。

また、英語力に関する質問項目については以下のような結果となった。



「あなたは英語を話せるようになりたいですか。」という質問では96%、「英語は好きですか。」という質問では93%の児童が肯定的回答をし、英語を使うことへの意欲がうかがえる。そこで、本単元の発表では外国の方に向けての発信を意識する中で、OGCで学習した英語表現を取り入れた発表を経験させる。これらの活動を通して、学んだ英語を使って外国の方とも意欲的にコミュニケーションをとり、自信をもって自分の考えや自国の文化を発信していくことができるようにしていきたい。

6 国際教育の視点における指導と評価の計画

時	ねらい	主な学習活動・内容	知	思	主	評価方法
1	外国の方に日本の米を食べてもらうために、おいしさが引き立つ食べ方を考える。	○日本の米のおいしい食べ方を出し合う。 ○外国の方に食べてもらいたい食べ方を選ぶ。				※国際教育の視点における評価は行わない。
2	発表に必要な情報を集め、選ぶ。	○おススメの米の食べ方を紹介するために必要な情報を、本やインターネット等を活用して集める。				※国際教育の視点における評価は行わない。
3	外国の方に分かりやすく発信するための工夫を知る。	○外国の方に分かりやすく発信するために、発表に取り入れる視覚的な工夫、既習の英語表現を知る。 ○聞き手とやり取りをするための手だてを考える。	①			外国の方に伝えるためには、既習の英語表現を使い、写真やジェスチャーなど視覚的に分かりやすい工夫を取り入れることが必要であることを理解している。(行動観察)
4 5	外国の方に伝わりやすい発表の工夫を取り入れた資料作成をする。	○OGC の時間で学習した表現や使ってみたい英語表現を選び、発表に取り入れる。 ○発表資料に合わせた問いかけやジェスチャーなどの表現方法を考える。		①		身近な米の魅力を外国の方に分かりやすく伝えるために、キーワードとなる英語や写真を入れるなど、発表資料を工夫している。(発表資料)
6	互いにアドバイスをし合い、よりよい表現を見付ける。	○発表のリハーサルを行う。 ○相手に伝わりやすくなるようにアドバイスをもとに修正する。	②			外国の方に伝わりやすい工夫を取り入れている。(行動観察・発表資料)
7 8 本時	日本の米のおいしい食べ方を相手に伝わりやすい工夫をしながら発表する。	○学級全体で日本の米のおいしい食べ方を紹介し合う。 ○発表を聞き、外国の方や地域の人に食べてもらいたい食べ方を選ぶ。		②	①	既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら発表している。 (行動観察・発表資料) 自分たちに身近な米の魅力に気づき、さらに多くの人々に伝えようとしている。 (記録・発言)

※次単元で実際に外国の方、米づくりでお世話になった地域の方を招待し、大東米を自分たちが考えた米のおいしい食べ方で試食する。

7 本単元における研究主題に迫るための具体的な手だて

(1) 体験活動の場の設定

児童が普段口にしていない米への興味・関心を高められるように、代かき・田植え・稲刈り・脱穀・精米等を体験し、日本の米と外国の米を食べ比べる活動を設定した。

米づくりを体験したことにより、自分たちが学習したことを外国の方にも伝えたい、実際に自分たちで調理して食べてみたい、外国の方にも食べてほしいという思いを引き出すことにつながた。

(2) 発信相手の明確化

相手に応じた発信力や表現力を身に付けられるように、発信相手を外国の方に設定した。

相手に分かりやすく伝えるためには、図や写真などの視覚的な工夫や英語表現を使い、ジェスチャーを交えながら発表することが効果的であるということに気付かせ、発表に取り入れられる表現方法を考えられるようにした。既習の英語表現やジェスチャーを取り入れた発信を経験することにより、第6学年の外国語の学習や、英語でのやり取りへの意欲を高めることにつながると考えた。

(3) グループトークの活用

発信する側と聞き手側とのやり取りが自然にできるように、毎時間の始めに1グループ4人によるグループトークの場を設定した。

短い時間で米に関するテーマに沿って自由に話し合い、共感を示したり、全員が発言できるように話を振ったりする練習を積み重ねることで、発表の際に自然なやり取りを引き出すことにつながると考えた。

(4) やり取りを意識した発表方法

発信する側と聞き手側のやり取りのきっかけづくりとして、発表者が聞き手に問いかけたり答えたりする発表方法をとることで、聞き手も参加できるようにした。聞き手には、やり取りに参加しやすくなるためのヒントカードを用意し、リアクションの例を示すようにした。やり取りが活発になるように、発表者1人に対し聞き手が3人のグループを構成した。また、自己評価シートを活用し、やり取りを振り返ることができるようにした。

8 本時の学習（全8時間扱いの第7・8時間目）

（1）本時の目標

日本の米のおいしい食べ方を外国の方に伝えるために、既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら分かりやすく伝えることができる。

（2）本時の展開（第7時間目）

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 10分	全体	1 保護者の方と挨拶をする。			
	グループ	2 テーマに沿って、グループで会話し、やり取りのウォーミングアップをする。	○短い時間で全員が会話に参加できるように促す。		
	全体	3 本時の学習を確認する。	○聞き手に分かりやすい工夫や、やり取りを取り入れて発信することを伝える。		
外国の方におすすめする、おいしい日本の米の食べ方はこれだ！ 工夫して分かりやすく伝えよう。					
展開 広げて 深める 25分	グループ	4 3つのブースに分かれ、米のおいしい食べ方についてフリップを使って紹介する。 <発表のすすめ方> ・Aグループは、発信者が交代しながら、1対3でやり取りをする。 ・Bグループは、Aグループのやり取りを見て評価する。	●やり取りが苦手な児童には、問いかけのタイミングや発表するためのメモを見ながら発表させる。 ☆Bグループの児童には、Aグループの発表を見て、外国の方に分かりやすく伝えるための工夫ができているかについて、評価することを伝える。	※聞き手がやり取りに参加しやすくなるためのヒントカードを与える。 ・相づち、反応 ・質問 ・共感	既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら発表している。 【イ-②】 (行動観察・発表資料)
		5 Aグループの発表のよかったところを伝える。			
まとめ 10分	全体	6 分かりやすく発表ができていたグループのポイントを振り返る。			
		7 保護者の方の感想を聞く。			

本時の展開（第8時間目）

過程	形態	学習活動	○指導内容 ●支援 ☆留意点	※研究との関連 (個別の手だて)	評価事項
導入 つかむ 5分	全体	外国の方におすすめする、おいしい日本の米の食べ方はこれだ！ 工夫して分かりやすく伝えよう。			
展開 広げて深める 30分	グループ	2 3つのブースに分かれ、米のおいしい食べ方についてフリップを使って紹介する。	○Aグループのよかったところを生かして発表をするように声かけをする。		
	全体	<発表のすすめ方> ・Bグループは、発信者が交代しながら、1対3でやり取りをする。 ・Aグループは、Bグループのやり取りを見て評価する。	●やり取りが苦手な児童には、問いかけのタイミングや発表するためのメモを見ながら発表させる。 ☆Aグループの児童には、Bグループの発表を見て、外国の方に分かりやすく伝えるための工夫ができているかについて、評価することを伝える。	※聞き手がやり取りに参加しやすくなるためのヒントカードを与える。 ・相づち、反応 ・質問 ・共感	既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら発表している。 【イ - ②】 (行動観察・発表資料)
まとめ 10分	全体	6 本時の学習を振り返る。 7 本単元の学習を振り返り、次時の学習を確認する。	○既習の英語表現を使い、ジェスチャーや問いかけをしながら、外国の人に伝わりやすい工夫を取り入れて発表できたか振り返らせる。	※自己評価シートで達成度を確かめる。 ・英語表現 ・ジェスチャー ・やり取り ・分かりやすい資料	自分たちに身近な米の魅力に気づき、さらに多くの人々に伝えようとしている。 【ウ - ①】 (記録・発言)